

基盤研究 B

「アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通
言語的学習達成度評価法の総合的研究」
(研究代表者：富盛伸夫先生)

第5回研究会

2013年7月26日

韓国の大学における 韓国語教育の現状

一言語能力評価指標の導入を中心に

南潤珍

(東京外国語大学大学院)

目次

1. 初めに
2. 調査対象大学の概要
 - 留学生受け入れ状況
 - 韓国語教育機関の位置づけ及び現況
3. 韓国語能力評価指標の導入状況
 - 3.1. 一般の評価指標
 - 3.2. 大学設定の指標
 - 3.3. 大学設定の指標と一般の指標との関係
4. まとめ

1. 初めに

1) 大学での韓国語教育の状況

「Study Korea Project」

(教育科学技術部 2004年)

- 2010年までに留学生を5万名に
- 16,832名(2004) → 83,842名(2010)

外国語としての韓国語教育,

特にアカデミック韓国語教育への要求が高まる。

2) 調査の目的

- 各大学の韓国語教育システムの把握
 - 言語能力評価指標の導入状況
 - 外部の評価指標やCEFRの参照状況
 - 教育担当者のCEFRについての考え
- 「国際通用韓国語教育標準モデル」について
 - 開発の背景、実状
 - 教育現場での活用状況

3) 調査の概要

- 期間: 2013年4月29日～5月8日
- 訪問機関
 - ソウル大学: 国語国文学科
言語教育院韓国語教育センター
 - 延世大学: 国語国文学科、韓国語学堂
 - 韓国外国語大学: 韓国語教育学科、
韓国語文化教育院
 - 国立国語院
 - 世宗学堂財団

2. 調査対象大学の概要

2.1. 延世大学

2.1.1. 21学部 21大学院

- 在学生37,849名 留学生2,608名(2012年度)
- 留学生の韓国語能力要件
 - 韓国語能力試験(TOPIK)5級/韓国語学堂5級
以上→一般学生と同一条件で科目履修可
 - 4級以下→科目履修制限

韓国語学堂での韓国語研修

2.1.2. 韓国語学堂

- 1959年設立
- 受講生 88か国 7,343名(2012年度)
- 開設課程

正規課程

大学韓国語課程：松島(Songdo)キャンパス

特別課程

委託教育課程

韓国語教師養成課程(web)

2.2. ソウル大学

2.2.1. 16学部10大学院

- 在學生27,978名 留學生2,608名(2012年度)

- 留學生の韓国語能力要件

出願時：韓国語能力試験(TOPIK)3級以上

入学時：言語教育院の韓国語能力評価5級以上

4級以下の人は言語教育院で韓国語研修

2.2.2. 言語教育院 韓国語教育センター

- 1963年「語学研究所」として設立
- 受講生 70か国 2,784名(2011年度)
- 開設課程

正規課程

特別課程

委託教育課程

韓国語教師養成課程

2.3. 韓国外国語大学

2.3.1. 19学部8大学院(25言語)

- 在学生19,934名 留学生608名(2012年度)
- 韓国語教育学科
- 留学生の韓国語能力要件
出願時: 韓国語能力試験(TOPIK)3級以上
韓国言語文化教育院の4級以上

2.3.2. 韓国語文化教育院

- 1974年設立
- 受講生 2,000名程度(日本人が30%)
- 開設課程

正規課程

短期課程

特別課程=委託教育課程

韓国語教師養成課程

3. 韓国語能力評価指標の導入状況

3.1. 一般の韓国語能力評価指標

3.1.1. 韓国語能力試験

(TOPIK: Test of Proficiency in Korean)

<試験概要>

- 1997年から年4回、62か国で実施
- 主管: 教育部傘下の国際教育院
- 受験者数: 1997年2,692名
→2012年151,166名
- 内容構成: 語彙-文法, 書き, 聞き, 読み
- レベルと等級
初級(1級・2級) 中級(3級・4級) 高級(5級・6級)

<評価基準>

- 別紙参照
- 4領域－語彙文法・書く・聞く・読む
2014年から話す・書く・聞く・読むへ
- 初級(1級、2級)中級(3級4級)高級(5級、6級)
- 言語機能中心、文化要素欠落
- 教育部で定めた外国人の大学入学資格の準拠となっている
- 各大学の評価指標・目標設定の参照準拠

3.1.2. 国際通用韓国語教育標準模型

- 2010年～2011年に開発
- 開発は国語院、事業実施は世宗学堂財団
- 韓国語学習者の拡大と多様化：標準化必要
- 対象：韓国国外-韓国系移民者
 - 外国語としての韓国語学習者
 - 韓国学専攻者
- 韓国国内-留学生
 - 外国企業の駐在員
 - 移住労働者
 - 多文化家庭

- 内容：標準教育課程等級化(目標・評価)：7等級
教育内容の提示－言語・文化
語彙文法リスト、文化要素リスト
- 総括目標 <別紙参照>
- 領域別目標
：テーマ、言語スキル、言語知識、文化
- 課題
汎用性(標準化)：要求の細分化
時期的問題：TOPIKとの関係性
(7等級・6等級)

3.2. 大学の韓国語能力評価指標

3.2.1. 延世大学：韓国語学堂

- 経験と知名度
- 一般韓国語課程とアカデミック韓国語課程
- 一般課程：6等級＜別紙参照＞
話す、書く、読む、聞くの4機能に分けて
- アカデミック韓国語課程：5等級＜別紙参照＞
2012年から実施
- TOPIKや国際通用基準の位置づけについて

3.2.2. ソウル大学:韓国語教育センター

- 1999年TOPIKを参照し教育課程構築
2008年各レベル別目標の記述を詳細に
- 6等級＋研究クラス<別紙参照>
学習時間に合わせて到達目標を記述
1級～6級:一般韓国語教育課程
研究クラス;アカデミック韓国語教育課程

3.2.3. 韓国外国語大学:韓国語文化教育院

- 交換留学生と入学希望者の動機の違い
→ コミュニケーション中心の教科課程
+ TOPIK準備クラス運営
- 6等級<別紙参照> + 1級
1級~6級:一般韓国語教育課程
TOPIKより高い水準
7級:2012年から必要に応じて開設
通・翻訳大学への連繋一個人指導

3.3.大学設定の指標と外部の指標との関係

項目	国際通用	TOPIK	延世大	ソウル大	韓国外大
レベル分け	7等級	6等級	6等級	6等級+1	6等級+1
言語機能	話す・書く・読む・聞く	語彙文法・書く・読む・聞く	話す・書く・読む・聞く	話す・書く・読む・聞く	話す・書く・読む・聞く
文化要素の反映	明示的	なし	非明示的	非明示的	非明示的
アカデミック韓国語	非明示的	なし	課程開設	+1クラス	+1クラス
参照	CEFR ACTFL TOPIKなど	ACTFL JPT		TOPIK	TOPIK

4. まとめ

1. 大学における韓国語教育は学部ではなく、付設機関を中心に行われている
2. 大学の教育機関でアカデミック韓国語教育への要求が現実問題として浮き彫りになっている
3. TOPIKの評価基準
 - 大学の韓国語教育課程の構成と緊密に連携している: 6等級, 内容
 - TOPIK基準との関係は各々の教育機関の歴史、状況によって異なる

4. 国際通用韓国語教育標準模型の到達目標

- 既存の教育課程との時間的ギャップ
- TOPIKとの等級のずれ
→実質の運営では6等級に

5. CEFRの位置づけ

- 「国際通用」に反映されているものの直接的影響関係はみられない。
- 通言語的参照基準という考え方には至らない